

特集3

通信教育部心理学専攻で活用スタート 学びの新たなサポート役「AI先輩」とは？

この秋、武蔵野大学通信教育部に学生の学修をサポートする新たな仲間が加わりました。授業や学び方の質問にいつでも答えてくれる対話型AIの「AI先輩」です。今回は、AI先輩に期待される役割や誕生秘話について、通信教育部教授の野口普子先生と、開発に携わった武蔵野大学スマートインテリジェンスセンター（MUSIC）の有馬宏和先生にお話をうかがいました。

教科書に基づいて回答 プラスアルファの情報も補足

武蔵野大学が開発したオリジナル学修支援システム「AI先輩」は、通信教育部心理学専攻の学生を対象に、10月から利用が開始されました。ChatGPTをベースに、授業で使用している教科書に基づいて学生の質問に答えるだけでなく、教科書に記載のない内容は「先輩自身の考え」として補足し、学生の主体的で深い学びをサポートします。

生成AIの活用が教育現場で課題となる中、AIをはじめとする先進技術の教育現場への導入を推進しているMUSICのセンター長・林浩一教授の発案をもとに、通信教育部との協働によって誕生しました。

「通信教育部の学生は、わからないことを気軽に質問できる相手がいないので、モチベーション維持が難しいという課題があります。孤独感を和らげ、自分で学ぶ意欲を支えるツールを求めている中でこのお話をいただき、通信教育の新しい試みとしてぜひ一緒にやってみよう」と思いました（野口先生）



通信教育部 野口 普子 教授

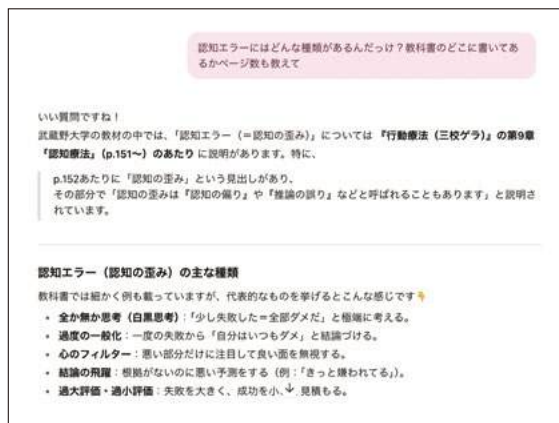
武蔵野大の学びに詳しい「先輩」 自学自習が多い科目へ導入

AI「先輩」ではなく「先輩」とした背景には、現在の生成AIの欠点を回避する狙いがあります。生成AIには、「ハルシネーション」や「ポチヨムキン理解」と呼ばれる誤った内容をいかにも正しいかのように回答してしまう問題があります。こうした特性は、教育現場で教員の代わりとなる「先輩」としての導入を難しくしています。そこで、AIを「先輩」と位置づけることで、多少の欠点があっても、学習者に寄り添い、参考意見を提示する「役立つ存在」として活用できるようにしています。「AIを先輩という形で教育に取り入れている大学は、まだ他にはないと思います」（有馬先生）



MUSIC 有馬 宏和 講師

AI先輩が対応しているのは、心理学専攻の授業の中でもスクーリングやメディア授業のない「心理学概論」「心と体の健康」「行動療法」の3科目。教員との接点が少なく、自学自習の度合いが強い科目であることから、AI先輩を導入する効果が高いと期待されています。



実際に質問した際の回答

また、学内で開発されたAI先輩は、武蔵野大学の学びに特化していることが強みです。

「AI先輩には科目を担当する先生ご自身が作ったテキストやスタディガイドを学習させているため、学生は一般的な情報ではなく、授業内容や先生の考え方に即した回答を得ることができます」（有馬先生）

「通信教育部で使用している学習システムの情報も組み込んでいたため、学習方法やスクーリングなどの情報に対応している点も特徴です」（野口先生）

修了生トリアルでは好評の声 多様な「AI先輩」の可能性

AI先輩の導入は、時代に即した新たな学び



はじめまして

なんでも
質問してください！

通信教育部 人間科学部
人間科学科 心理学専攻 2年目

AI先輩

の体験を提供するという点でも大きな意味を持つ取り組みです。

「各専攻の専門的な学びに加え、AIを活用した新しい学び方に触れることで、学生の今後の生活がより豊かになるのではないのでしょうか。武蔵野大学通信教育部には20年を超える歴史がありますが、こうした新しい学びのスタイルを提供し、可能性を広げていくことが重要だと考えています」（野口先生）

利用開始前には、通信教育部の修了生の協力を得てトリアルを実施しました。「難しい定義もキーワードを広げて教えてくれた」「おすすめの図書も提案してくれるのでモチベーションアップにつながった」とおおむね好評でしたが、中には「もう少し年齢の高いキャラクターの方が親しみやすいのでは？」という声も。「トリアルの際アイコンは20代の若者をイメージしたイラストだったので、30〜50代が中心の通信教育部の「先輩」としてはちょっと若かったのかもしれない」と野口先生。現在は落ち着いた雰囲気、男性のアイコンに変更されており、「今後AI先輩が増えるとしたら、いろんなキャラクターがいってもいいかもしれませんね」（有馬先生）

孤独を感じやすい通信教育の課題を解決し、時代に即した新たな学びの体験を提供するAI先輩。その「活躍」には大きな期待が寄せられています。